基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策１　家庭・地域との連携・協働の推進 １　家庭・地域と一体となった学校運営の推進 (1)コミュニティ・スクールを活用し，保護者や地域住民などの学校運営への参画を促進します。また，コミュニティ・スクールは，地域の実情に応じ，中学校区内における小・中学校間の連携を図りながら運営します。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進	担当課	教育政策課
事業概要（目的等）	子どもたちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校」の実現に向けて，地域住民や保護者，教職員が一定の権限と責任をもって学校運営について意思決定を行う学校運営協議会を市立幼稚園・小・中学校・高等学校に設置し，学校運営に参画する取組を推進する。		

取組実績

【取組実績】
・すべての市立幼稚園・小・中学校・高等学校に設置しているコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）において，保護者や地域と連携しながら，各学校における工夫のもと，創意ある取組を行った。
・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）への共通理解を深めるため，学校運営協議会委員および地域連携担当の教職員等を対象として，動画視聴による研修を実施した。

【過去５年間の推移】学校運営協議会設置校数　　（単位：校）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
学校運営協議会設置校数	63	60	59	59	59

※R3～R5は学校統合により学校数減少

成果と課題

【成果】
・各学校における工夫のもと，地域との情報共有を図ることができた。
・学校が地域と連携した取組を組織的に行えるようになった。
・学校運営に対する保護者や地域の理解が深まった。

【課題】
・地域住民，保護者および教職員が共通のビジョンをもって学校運営が行われるよう，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）への共通理解や，学校運営協議会における熟議の活発化を促す必要がある。

評価

○

	進捗		成果		課題
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

学校運営協議会委員や学校職員を対象とした研修の実施により，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）への共通理解を深め，地域とともにある学校づくりを推進する。

<table>
<tr><td rowspan="4">基本計画
の 体 系</td><td colspan="3">基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策１　家庭・地域との連携・協働の推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　家庭・地域と一体となった学校運営の推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">(2)家庭・地域・学校がめざす子ども像や教育目標，学校運営の基本方針を共有し，学校評価などを通じて学校運営の工夫・改善を図ります。</td></tr>
<tr><td>その他計画
の位置付け</td><td colspan="3">□基本構想実施計画　　□教育行政執行方針
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td>学校評価の充実</td><td>担当課</td><td>学校教育課・教育政策課</td></tr>
<tr><td>事業概要
（目的等）</td><td colspan="3">各学校の教育内容の質の向上が図られるよう，学校運営の改善・充実をめざし，各学校において，学校評価を通じて教育活動等の成果を検証し，必要な支援・改善を行う。</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="3">【取組実績】
・各学校において，児童生徒や保護者に対して行った教育活動等に関わるアンケート結果に基づき自己評価を行った。
・各学校において，学校運営協議会による学校関係者評価を実施し，自己評価の結果について評価を行った。
・各学校において，学校評価の結果について，その改善策とともに学校だよりへの掲載や保護者懇談会にて説明を行った。
・市ホームページにて，各学校の学校評価結果の掲載を行った。</td></tr>
<tr><td>成 果 と
課　　題</td><td colspan="3">【成果】
・各学校において，学校評価の結果に応じた改善策を講じることにより，学校運営の工夫や改善が図られ，一定水準の教育の質が確保された。

【課題】
・各学校が学校評価結果を広く公表できるよう，支援していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>○</td><td colspan="2">
<table>
<tr><th colspan="2">進　捗</th><th colspan="2">成　果</th><th colspan="2">課　題</th></tr>
<tr><td>✔</td><td>予定どおり</td><td></td><td>成果が十分</td><td></td><td>課題はない（ほとんどない）</td></tr>
<tr><td></td><td>概ね予定どおり</td><td>✔</td><td>成果が一定程度</td><td>✔</td><td>課題は小さい</td></tr>
<tr><td></td><td>やや遅れ</td><td></td><td>成果が不十分</td><td></td><td>課題はやや大きい</td></tr>
<tr><td></td><td>遅れ</td><td></td><td>成果が見られない</td><td></td><td>課題は大きい</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>今年度の
状　　況</td><td>継続</td><td colspan="2">一定水準の教育の質を保障するため，各学校における学校評価の取組や公表について支援を行う。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">基本計画
の 体 系</td><td colspan="3">基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策１　家庭・地域との連携・協働の推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　家庭・地域と一体となった学校運営の推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">(3)教育活動について，積極的に保護者や地域住民などに対して情報発信し，教育活動への参画を促進します。</td></tr>
<tr><td>その他計画
の位置付け</td><td colspan="3">□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td>コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に関する情報発信</td><td>担当課</td><td>教育政策課</td></tr>
<tr><td>事業概要
（目的等）</td><td colspan="3">　コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みを活かして地域と学校が連携・協働して行った教育活動について，情報発信を行うことにより保護者や地域住民による教育活動への参画を促す。</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="3">【取組実績】
・コミュニティ・スクールの取組を「地域学校協働活動実践事例集」にまとめ，全市立学校および幼稚園に送付するとともに，市ホームページに掲載した。
・「函館市地域学校協働活動通信『はこのわ』」を発刊し，地域コーディネーターによる取組を紹介するとともに，全市立学校および幼稚園，保護者，学校運営協議会委員等に送付するほか，市ホームページに掲載した。</td></tr>
<tr><td>成 果 と
課　　題</td><td colspan="3">【成果】
・実践事例などの情報発信により，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動に対する保護者や地域住民等の理解が深まった。

【課題】
・コミュニティ・スクールの取組について，より分かりやすい情報発信に努め，保護者や地域住民が学校運営や地域学校協働活動に参画しやすい環境づくりを進める必要がある。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>○</td><td colspan="2">進　捗
　予定どおり
✔ 概ね予定どおり
　やや遅れ
　遅れ</td><td colspan="2">成　果
　成果が十分
✔ 成果が一定程度
　成果が不十分
　成果が見られない</td><td>課　題
　課題はない（ほとんどない）
✔ 課題は小さい
　課題はやや大きい
　課題は大きい</td></tr>
<tr><td>今年度の
状　　況</td><td>継続</td><td colspan="4">　各種広報媒体を活用し，コミュニティ・スクールに関する情報発信を行うことにより，保護者や地域住民による学校運営への参画を促す。</td></tr>
</table>

基本計画の体系	**基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進** **施策１　家庭・地域との連携・協働の推進** **１　家庭・地域と一体となった学校運営の推進** (4)地域と学校をつなぐ人材の発掘・育成に努めるとともに，家庭・地域・学校が連携・協働して行う活動の実施やその運営を担う組織づくりを促進します。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）

事業名	地域学校協働活動の推進	担当課	教育政策課

事業概要（目的等）

地域と学校をつなぐパイプ役として，市立学校に地域コーディネーターを配置し，学校運営協議会で協議した内容を基に，地域と学校が連携・協働して，「学校を核とした地域づくり」をめざし，地域全体で子どもたちの学びや成長を支える取組である「地域学校協働活動」を推進する。

取組実績

【取組実績】

・地域コーディネーターを市立小・中学校および高等学校31校計20名配置したほか，「地域学校協働活動連絡会議」を開催し，各地域コーディネーターの活動に係る情報交換や本市の地域学校協働活動の今後の方向性等について検討を行った。
・各地域コーディネーターとの連絡調整や人材育成・発掘等の統括的な役割を担う「統括地域コーディネーター」を新たに配置し，地域学校協働活動の推進を図った。

（地域学校協働活動連絡会議）
令和７年５月１日　　趣旨説明，意見交流（今後の方向性等の検討）
令和７年８月５日　　行政説明，活動報告
令和８年２月10日　　行政説明，報告，意見交流（今年度の活動の振り返り）

（地域コーディネーター研修会）
令和７年８月５日　　基礎編・応用編

【過去５年間の推移】地域学校協働活動連絡会議開催回数　　（単位：回）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
地域学校協働活動連絡会議開催回数	2	3	3	4	3

成果と課題

【成果】

・各地域コーディネーターが地域と学校の連絡調整等を行い，地域人材を活用した授業の実施やボランティアの募集など，各配置校のニーズを踏まえながら，地域と学校が連携・協働した活動を行うことができた。
・「地域学校協働活動連絡会議」の開催により，情報交換を通して，地域コーディネーター間の連携強化につながったほか，今後の方向性について，各地域の実情を踏まえた協議を行うことができた。
・統括地域コーディネーターの配置により，地域コーディネーター間の活動見学や情報交換が活性化し，地域コーディネーターが活動しやすい環境づくりにつながった。

【課題】

・地域学校協働活動のさらなる推進を図るため，地域コーディネーターの育成や配置拡充に取り組む必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

拡充

統括地域コーディネーターと連携して，地域コーディネーターの育成・人材発掘に取り組み，地域学校協働活動のさらなる推進を図る。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策１　家庭・地域との連携・協働の推進 １　家庭・地域と一体となった学校運営の推進 (4)地域と学校をつなぐ人材の発掘・育成に努めるとともに，家庭・地域・学校が連携・協働して行う活動の実施やその運営を担う組織づくりを促進します。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	学校図書館の地域開放の取組	担当課	教育政策課
事業概要（目的等）	地域・学校が協働して児童生徒を育む活動の一環として，保護者，地域住民，学校司書等が連携・協働して，学校図書館を開放し，児童生徒や地域住民の読書活動の充実や地域の教育力の向上を図る。		

取組実績

【取組実績】
・学校司書と協働しながら，５校において懇談会や授業参観等の機会に併せ保護者等へ学校図書館を開放した。
（実施校）桔梗中学校，恵山中学校，本通中学校，亀田中学校，戸井学園
・戸井学園では，幼・小・中の連携により，戸井幼稚園児を招待し，学校司書による絵本の読み聞かせを実施した。

【過去５年間の推移】学校図書館開放状況　　（単位：校，回，人）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
実施校数	7	6	7	5	5
開放回数	18	21	34	21	26
利用人数	130	93	69	49	84

成果と課題

【成果】
・対象者を保護者等，学校関係者に限定した形ではあるが，５校で計26日間にわたり学校図書館を開放することで，保護者等の読書活動の充実が図られた。

【課題】
・学校図書館を開放するためには，図書館の環境整備はもとより，児童生徒や教職員・保護者らが，より安心して地域住民を受け入れることのできる運営体制を確立する必要がある。
・継続的に実施している学校において，図書館開放は定着しつつあるが，利用者の固定化も見られるため，学校の状況や地域の実情に合わせて開放する必要がある。

評価　△

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり		成果が一定程度		課題は小さい
	やや遅れ	✔	成果が不十分	✔	課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**	今後は「地域学校協働活動の推進」の取組の一つとして，学校図書館を地域開放するなどし，児童生徒や地域住民の読書活動の充実を図る。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 １　校務運営および指導体制の工夫・改善 (1)校長のリーダーシップのもと，教育目標の実現に向けて教職員が適切に役割を果たすとともに，相互に連携しながら教育活動に取り組むことができるよう校務運営の改善・充実を図ります。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）

事業名	校務運営の改善・充実	担当課	教育指導課，学校教育指導監

事業概要（目的等）

市立幼稚園，小・中学校における学校経営，学習（保育）指導，生徒指導，学校安全，特別支援教育に関わる実践的な取組等について，情報交換や協議，指導・助言を行う。

取組実績

【取組実績】

・学校教育指導監を２名配置し，学校経営訪問を実施した。
・渡島教育局義務教育指導監による学校経営指導訪問に学校教育指導監が随行した。
・学校教育指導監による学校訪問(コミュニティ・スクール関係)を実施した。
・学校教育指導監による学校行事の参観を実施した。
・学校教育指導監による学校課題等に応じた学校訪問(指導主事の同行を含む)を実施した。

＜学校教育指導監による活動実績＞　　（単位：人）

区分	小学校	中学校	義務教育学校	幼稚園	高等学校	合計
渡島教育局 義務教育指導監の随行	40	18	1	0	1	60
学校経営訪問	125	52	3	1	0	181
コミュニティ・スクール,GIGAスクール・学校図書館関係の学校訪問	1	2	0	0	0	3
学校行事の参観	3	7	0	0	1	11
学校課題対応のための学校訪問	1	4	0	0	0	5

成果と課題

【成果】

・管理職や担当者と教育推進の重点事項である「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」についてや，学校を核とした地域づくりのあり方等について協議を行い，各学校の取組における成果と課題を共有して，実態に応じた指導・助言を行うことができた。

【課題】

・各学校が抱える学校課題を的確に把握し，実態を踏まえた一貫性のある学校支援を行うことができるよう，関係各課と共通理解を図っていく必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

学校経営上の課題解決を図ることができるよう，地域とともにある学校づくりをめざすコミュニティ・スクールの推進と併せ，学校経営訪問を継続する。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 １　校務運営および指導体制の工夫・改善 (1)校長のリーダーシップのもと，教育目標の実現に向けて教職員が適切に役割を果たすとともに，相互に連携しながら教育活動に取り組むことができるよう校務運営の改善・充実を図ります。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）
事業名	学力向上および教員の指導力向上に係る事業等の推進　　担当課：教育指導課
事業概要（目的等）	市立幼稚園，小・中学校，高等学校の要請に基づき，学校教育指導に関する専門的事項について指導・助言を行い，各学校における学力や指導力の向上を図る。

取組実績

【取組実績】

・幼稚園１回，小学校38回，中学校18回，義務教育学校１回，計58回の学校教育指導（要請訪問）を行った。
・58校（園）に対する学校教育指導（要請訪問）においては，各学校の授業改善および学力の向上を図ることを目的に，授業参観および研究協議を通じて指導・助言を行った。
・各学校のニーズに応じて指導主事等が学校を訪問し，講義等を行う「訪問研修」を小学校で４回実施した。

【過去５年間の推移】学校教育指導実施回数　　（単位：回）

区分		R3	R4	R5	R6	R7
要請訪問	幼稚園訪問	1	1	1	1	1
	小学校訪問	43	38	38	39	38
	中学校訪問	18	19	18	18	18
	義務教育学校訪問	1	1	1	1	1
訪問研修	幼稚園訪問	0	0	0	0	0
	小学校訪問	11	9	7	2	4
	中学校訪問	4	8	1	2	0
	義務教育学校訪問	0	1	0	1	0
	高等学校訪問	1	1	0	0	0

成果と課題

【成果】

・学校教育指導（要請訪問・訪問研修）や管理職研修により，学力や指導力の向上に向けた取組等について，各学校の理解を深めることができた。
・訪問研修や管理職研修を通じて，教職員の専門性の向上，管理職の学校組織マネジメントについての資質向上を図ることができた。

【課題】

・「個に応じた指導」を行ううえで，１人１台端末の活用は効果的であることから，１人１台端末を活用した各学校の好事例について情報提供し，普及・啓発を図る必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

１人１台端末を活用した各学校の活用方法等の好事例について情報を提供するとともに，授業の質や指導力の向上に向け，学校教育指導（要請訪問・訪問研修）や教員研修の充実を図る。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 １　校務運営および指導体制の工夫・改善 (2)児童生徒，学校および地域の実情を踏まえた教育課程を編成し，組織的かつ計画的に実施するとともに，学校評価などを活用して教育活動の質の向上を図ります。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	単位制を活用した教育課程の充実（高等学校）	担当課	市立函館高等学校
事業概要（目的等）	単位制の特色である生徒の興味・関心に応じた学習の充実，多様な進路希望の実現のため，少人数によるきめ細かな指導を推進する。 また，「函館学」や「医療倫理」などの学校設定科目を設定するなど，特色ある教育課程の編成･実施を推進する。		

取組実績

【取組実績】
・総計で85科目の授業を開講し，単位制の特色である生徒の興味・関心や希望する進路希望に対応した授業を行った。
・市立函館高等学校独自の「函館学」や「医療倫理」，「中国語」，「ハングル」など特色のある学校設定科目を設け，特色のある教育課程を編成・実施した。

【過去５年間の推移】市立函館高校における総開講科目数　（単位：科目）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
総開講科目数	85	85	85	85	85

成果と課題

【成果】
・単位制の特色を生かして，生徒の興味・関心に応じた選択科目を設定することができた。
・多様な進路希望の実現のため，少人数によるきめ細かな指導を推進することができた。

【課題】
・主体的，対話的で深い学びの充実に向けた教育課程の編成・実施を推進する必要がある。
・より柔軟な選択が可能な教育課程の編成を推進する必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

学習指導要領で示されている，「主体的，対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながる教育課程の編成・実施について組織的に対応を進める。

<table>
<tr><td rowspan="4">基本計画
の 体 系</td><td colspan="3">基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策２　学校における指導体制等の充実</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　校務運営および指導体制の工夫・改善</td></tr>
<tr><td colspan="3">(3)豊かな知識・経験をもつ専門家などの外部人材を教育活動に活用するとともに，関係機関・企業・高等教育機関などと連携し，指導体制の充実を図ります。</td></tr>
<tr><td>その他計画
の位置付け</td><td colspan="3">□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td>外部人材の活用</td><td>担当課</td><td>教育指導課</td></tr>
<tr><td>事業概要
（目的等）</td><td colspan="3">教育活動の質の向上を図るため，地域の人的資源を効果的に活用することや関係機関などと連携することにより，指導体制の充実を図る。</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="3">【取組実績】
・各学校では，交通安全教室，がん教育，薬物乱用防止教室，ふるさと教育，海洋に関するＳＴＥＡＭ教育など，市長部局や病院，警察，大学などの関係する機関から外部人材を招聘し，専門的な内容についての指導や講話等の機会を設定するなど，児童生徒の資質・能力の向上を図る専門性の高い取組が見られた。</td></tr>
<tr><td>成 果 と
課　　題</td><td colspan="3">【成果】
・専門性の高い外部人材による講話等により教育活動の充実を図ることで，授業の質の向上と児童生徒の資質・能力の向上を図ることができた。

【課題】
・各教科等の教育活動および指導体制の充実を図るため，地域の人的資源を活用し，計画的に指導計画に位置付けていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>○</td><td colspan="2">
<table>
<tr><th colspan="2">進　捗</th><th colspan="2">成　果</th><th colspan="2">課　題</th></tr>
<tr><td></td><td>予定どおり</td><td></td><td>成果が十分</td><td></td><td>課題はない（ほとんどない）</td></tr>
<tr><td>✔</td><td>概ね予定どおり</td><td>✔</td><td>成果が一定程度</td><td>✔</td><td>課題は小さい</td></tr>
<tr><td></td><td>やや遅れ</td><td></td><td>成果が不十分</td><td></td><td>課題はやや大きい</td></tr>
<tr><td></td><td>遅れ</td><td></td><td>成果が見られない</td><td></td><td>課題は大きい</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>今年度の
状　　況</td><td>継続</td><td colspan="2">外部人材の活用については，児童生徒の理解を深め，意欲を喚起するために必要なことと考えられることから，積極的に活用し，指導計画に位置付けられるよう，指導・助言を行う。</td></tr>
</table>

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ２　業務改善に向けた取組の推進 (1)教員の勤務実態などを校務支援システムを活用して客観的に把握しながら，学校における業務改善に向けた取組を推進します。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	学校における業務改善の取組の推進	担当課	教職員課，学校教育課
事業概要（目的等）	本市における教育の質の向上をめざし，「教職員の業務改善のための取組(令和６年３月改訂)」等に基づき，各学校の業務改善に向けた取組を推進する。		

取組実績

【取組実績】
・全市立学校および幼稚園において，ＩＣカードを活用した出退勤時刻の客観的な把握を行うとともに，その状況について，働き方改革通信等を通して周知を図った。
・業務改善に係る学校の状況調査や教職員の意識調査を実施し，実態の把握に努めた。
・令和７年６月の「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等」（以下，給特法）の一部改正に伴い，国指針に準じた事項について，「教職員の業務改善のための取組」および「市立学校等に勤務する教育職員の在校等時間の上限等に関する方針」を改訂し，給特法に定める計画に位置付け，学校現場の業務改善に向けた取組の一層の推進を図ることとした。

【過去５年間の推移】時間外在校等時間の状況（小・中学校教員）　　（単位：%）

区分		R3	R4	R5	R6	R7
1年間を通じて1か月45時間以内	小学校	53.2	54.6	52.8	56.5	67.9
	中学校	37.4	37.9	39.9	44.1	49.9
1年間360時間以内	小学校	58.5	61.2	60.6	65.8	72.8
	中学校	46.5	42.0	49.0	52.8	54.6

※小学校は義務教育学校前期課程，中学校は義務教育学校後期課程をそれぞれ含む

成果と課題

【成果】
・教職員の長時間勤務を解消するため，学校における業務改善や働き方改革に向けた効果的な活用事例や進捗状況等について，情報提供を行うことにより，各学校における取組や意識改革が進んだ。

【課題】
・国指針で目標としている「令和11年度までに，教育職員の１か月当たりの時間外在校等時間の平均30時間程度」の実現につなげるため，学校・保護者・地域における問題意識の共有や学校の業務内容や役割分担の見直しに向けてさらなる取組の推進が必要である。
・また，時間外在校等時間の状況は年々改善しているものの，一部教職員，とりわけ教頭職の長時間勤務が常態化している現状もあり，職場内の理解による業務内容の精査や分担などの対策が急務である。

評価

○

進捗		成果		課題	
✔	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度		課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分	✔	課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

教職員の長時間勤務の解消を図るため，各学校における業務改善の取組を支援する。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ２　業務改善に向けた取組の推進 (1)教員の勤務実態などを校務支援システムを活用して客観的に把握しながら，学校における業務改善に向けた取組を推進します。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）
事業名	学力向上非常勤講師の配置（中学校免許外指導解消）　　担当課：教職員課
事業概要（目的等）	学校規模により，免許外教科担任が指導を行う中学校に，当該教科の普通免許状所有者を時間講師（会計年度任用職員）として配置することで，生徒に専門的で質の高い授業を実施し，学習への関心・意欲，学力の向上をめざすとともに，教員の負担軽減を図る。

取組実績

【取組実績】

・免許外教科指導が必要な学校のうち，道教委が実施する「中学校免許外解消事業」の対象とならなかった学校へ非常勤講師を配置し，生徒の学習環境を整えるとともに，教員の負担軽減を図った。

区分	措置が必要な学校数	うち道費で措置されている学校数	当事業で措置した学校数	措置できなかった学校数
音楽	0 校	0 校	0 校	0 校
美術	9 校	7 校	2 校	0 校
保体	0 校	0 校	0 校	0 校
技術	10 校	8 校	2 校	0 校
家庭科	13 校	9 校	2 校	3 校
計	32 校	24 校	6 校	3 校

※技術科については技術教員兼務における後補充としての対応
※家庭科については人材確保が困難な状況等により，校内で免外対応を行った。

【過去５年間の推移】免許外指導解消非常勤講師の配置状況（市費）　　（単位：校，人）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
美術	２校２名	２校２名	２校２名	２校２名	２校２名
技術	－	－	－	－	２校２名
家庭科	５校５名	５校５名	５校４名	５校４名	２校３名

※技術科については技術教員兼務における後補充としての対応

成果と課題

【成果】

・免許を有する教員の授業を提供できるとともに，教員が本来の教科指導に専念することができ，生徒の学習環境が整ったほか，教員の負担軽減にもつながった。

【課題】

・教員の人事異動に係る教科担任の配置状況や道教委が実施する「中学校免許外解消事業」での加配教員や非常勤講師の配置状況により，非常勤講師が必要となる教科や事業時間数が変わることから，新年度の授業開始に合わせた人材の確保が課題となっており，対象教科によっては，慢性的な人材不足の状況にある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり	✔	成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり		成果が一定程度		課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分	✔	課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

専門的で質の高い授業の取組を実施するとともに，教員の負担軽減が図られるよう本事業を継続する。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ２　業務改善に向けた取組の推進 (1)教員の勤務実態などを校務支援システムを活用して客観的に把握しながら，学校における業務改善に向けた取組を推進します。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）

事業名	【再掲】部活動地域支援者の活用	担当課	教育政策課，市立函館高等学校

事業概要（目的等）

中学校および高等学校では，専門的な知識や経験がない教員が部活動の顧問を担当し，生徒への技術指導に苦慮している部活動があることから，顧問教員の補佐として専門的な技術指導を行う部活動地域支援者の活用を促進し，部活動における指導体制の充実および顧問教員の負担軽減を図る。

取組実績

【取組実績】
・配置を希望する市立中学校および高等学校に部活動地域支援者を配置した。
・配置校の部活動において，支援者が顧問教員を補佐し，生徒に対して専門的な技術指導を行った。
・部活動地域支援者の配置希望がありながら，学校での人材確保が難しく，支援者を配置できていない部活動も見受けられることから，公募による人材確保の手法として，人材バンク制度の導入について検討を行った。

【過去５年間の推移】部活動地域支援者の配置状況　　（単位：校，人）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
配置学校数（中）	11	11	12	13	13
支援者数（中）	26	34	28	37	35
配置学校数（高）	1	1	1	1	1
支援者数（高）	4	4	3	3	3

※支援者数は延べ配置人数

成果と課題

【成果】
・配置校の部活動において，生徒への指導体制の充実と顧問教員の負担軽減が図られた。

【課題】
・部活動の地域展開が完了するまでの間は，部活動地域支援者の活用を継続できるよう人材および予算の確保に努める必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
✔	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度		課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分	✔	課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況

継続

部活動地域支援者の新規配置や拡充を望む学校が増えていることから，人材バンク制度の導入等により支援者の人材確保に努める。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進		
	施策２　学校における指導体制等の充実		
	２　業務改善に向けた取組の推進		
	(1)教員の勤務実態などを校務支援システムを活用して客観的に把握しながら，学校における業務改善に向けた取組を推進します。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	校務支援システムの活用	担当課	学校教育課，教職員課
事業概要（目的等）	学校の情報化や教職員の業務改善を目的として，児童生徒の情報や校務スケジュール管理等を行う北海道共同利用型校務支援システムの活用を図る。		
取組実績	【取組実績】 ・全校に導入している校務支援システムを，令和７年度も継続して運用した。 ・異動者等初任者向けおよび年度移行処理に向けた教職員向けの説明会（オンライン）をそれぞれ１回ずつ開催した。 ・保護者連絡ツールのtetoruを全校導入し，欠席連絡や配付物のデータ送信による業務効率化を実践した。		
成果と課題	【成果】 ・システムの効果的な活用を図るため，年度初めには異動者等初任者向け，年度末には年度移行処理に向けた説明会を開催し，各学校へのサポートを実施することで業務改善につなげることができた。 【課題】 ・各学校において校務支援システムの効果的な運用が図られるよう，各学校の取組をサポートしていく必要がある。		

評価	◎	進捗		成果		課題	
		✔	予定どおり	✔	成果が十分		課題はない（ほとんどない）
			概ね予定どおり		成果が一定程度	✔	課題は小さい
			やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
			遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**	各学校において校務支援システムの効果的な活用が図られるよう，サポートを行うとともに，適宜関連事務手続き等の見直しなどに取り組む。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ３　教職員の資質能力の向上 (1)教職員のキャリアステージに応じた研修を実施するほか，授業改善，特別支援教育や情報モラル教育など今日的な教育課題に対応した研修の充実を図ります。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）
事業名	教職員研修の充実　　担当課：教育センター
事業概要（目的等）	教職員の経験年数に応じた研修や，複雑化・多様化する学校課題に対応するために必要な資質・能力の向上を図る研修を充実する。

取組実績

【取組実績】

・南北海道教育センター主催研修として，専門性の向上を図る「専門研修」，教育課程や校内研究等の各学校の取組の充実を図る「担当者研修」を実施した。
・道教委事業「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」における推進教員による「ＩＣＴを効果的に活用した授業改善」について実践発表の機会を設定し，各学校における授業改善およびカリキュラム・マネジメントの推進・充実をより一層加速させることにつなげた。
　※専門研修：管理職研修，授業改善等研修，課題別研修（生徒指導等）
　※担当者研修：道徳教育推進教師，特別支援学級担当教諭，養護教諭を対象とした研修等
・学校のニーズに応じて指導主事が学校を訪問し，講義等を行う「訪問研修」を実施した。

【過去５年間の推移】研修の受講者数および訪問研修の実施回数　　（単位:人，回）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
南北海道教育センター主催の研修	1,085	603	891	948	1,028
北海道教育委員会と共催の研修（初任段階教員研修）	―	349	354	326	414
訪問研修	15	8	5	5	4

※R4から初任段階教員研修は，市主催から道との共催へ変更

成果と課題

【成果】

・指導体制等の充実を図るための具体的な手立て等に焦点をあて，函館市の教育課題の解決や実践力に結び付く研修を実施したことにより，教職員の資質向上が図られた。
・児童生徒の資質・能力の育成をめざし，授業を通した研修である「授業改善等研修」を計３回実施したことにより，各学校の教育実践の改善および充実につなげることができた。

【課題】

・児童生徒および保護者の多様化するニーズに対応するとともに，教職員の研修観の転換を図ることができるよう，研修内容や参加形態等を工夫しながら実施する必要がある。

評価

○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**　函館市における教育課題の解決に向け，教師自身の学び（研修観）を転換し，「新たな教師の学びの姿」を実現できるよう教職員研修の充実を図る。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ３　教職員の資質能力の向上 (2)実践的な研究を通じて，指導方法の改善・充実に努めるとともに，南北海道教育センターにおける事業の充実を図ります。また，優れた実践事例については学校間で共有を図ります。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	南北海道教育センター研究事業の推進	担当課	教育センター
事業概要（目的等）	函館市の教育課題の改善・充実を図るため，研究員による授業改善に向けた研究や公開授業等を行い，その成果を南北海道教育センターが実施する専門研修等で発信し，市内の各学校や教員に普及させる。		
取組実績	【取組実績】 ・小・中学校の教諭９名が，研究員として３つの部会（言語能力育成部会，情報活用能力育成部会，問題発見・解決能力育成部会）に分かれ，本市の教育課題の解決に必要な実践的な研究を行った。 ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る授業の構築～すべての子どもの可能性を引き出す複線型の授業づくりを目指して～」のテーマの下，部会ごとに授業研究を中核とした研究を行い，「授業改善Ⅰ」「授業改善Ⅱ」「授業改善Ⅲ」の各専門研修において，研究員が行う研究授業を公開するとともに，研究内容の発表や研究協議を通じて研究内容の成果普及を図った。 ・研究の内容や成果・課題については，「令和７年度　南北海道教育センター研究員　研究のまとめ」として，南北海道教育センターのホームページで公開し，研究成果の普及・情報発信に努めた。		
成果と課題	【成果】 ・公開授業や講義を通して，参加した多くの教職員が学習の基盤となる資質・能力の育成をめざした指導力の向上を図ることができた。 ・子どもが１人１台端末を活用して，主体的に学習課題に取り組む「複線型の授業」を行うことで，子ども同士の学び合いが活発化するなど，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることができた。 【課題】 ・新採用教諭が，「授業改善Ⅰ」「授業改善Ⅱ」「授業改善Ⅲ」のいずれかの研修に参加するようにしたことで，各研修会の参加者は増えたが，新採用教諭以外の参加者が少なかったことから，より多くの教職員が，公開授業を通して授業改善のポイントを学ぶことができるよう，研修の呼びかけ方について工夫する必要がある。		

評価	○	進捗		成果		課題	
		✔	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
			概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
			やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
			遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**	各学校における授業改善が進められるよう，学校現場のニーズを踏まえた，研究内容の工夫・改善を図るほか，３年計画の３年目の研究事業であることから，主体的・対話的で深い学びの実現に向け，成果と課題を明らかにしていく。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策２　学校における指導体制等の充実 ３　教職員の資質能力の向上 (3)児童生徒への適切な支援を教職員が行ううえで必要となる児童福祉などに関する知識を深める機会の充実に努めます。
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）
事業名	生徒指導に係る研修事業の充実　　担当課：教育センター
事業概要（目的等）	児童生徒への適切な対応の充実を図るため，児童福祉などに関する知識を深める機会の充実に努める。

取組実績

【取組実績】
・専門研修（課題別研修）において，教育相談等の生徒指導に関する研修や特別支援教育に関する研修を企画し，教育上特別な配慮を要する児童生徒に対する支援のあり方や児童福祉などに関する知識を深める研修を実施した。
・福祉部局や関係機関等と連携した支援のあり方等について理解を深めるため，法務少年支援センター支所長や函館市いじめ防止対策審議会委員を交えたシンポジウムを開催した。
・市教委が作成したリーフレット等の資料を配付することにより，児童生徒への適切な支援を行ううえで必要となる児童福祉などに関する理解を深めることができた。

【過去５年間の推移】研修の受講者数　（単位:人）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
生徒指導	129	87	66	68	79
生徒指導（道と共催）	－	75	91	66	75
特別支援教育	189	87	55	113	147
特別支援教育（道と共催）	－	35	41	95	85

※R4から，センター主催の研修であった初任段階教員の課題別研修等（生徒指導，特別支援教育）が道と共催になった。

成果と課題

【成果】
・研修を通じて，教育上特別な配慮を要する児童生徒に対する支援のあり方や児童福祉などに関する教員の知識や指導力を高めることができた。

【課題】
・生徒指導事案においては，児童相談所など学校外の機関との連携が求められるケースがあり，今日的な教育課題を捉えた研修内容の充実および函館市特別支援教育推進協議会との連携を図る必要がある。
・訪問研修等の機会を活用し，各学校における福祉部局や児童相談所等の関係機関との連携のあり方について理解を深める必要がある。

評価　○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況　**継続**

教育センター主催の専門研修（課題別研修）において，生徒指導に係る研修を実施するとともに，訪問研修の機会等を通じて児童福祉などに関する知識を深め，児童生徒に対する適切な支援のあり方について教員の理解の促進を図る。

<table>
<tr><td rowspan="4">基本計画
の 体 系</td><td colspan="3">基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策３　学校間の連携・接続</td></tr>
<tr><td colspan="3">１　学校間の縦の連携・接続</td></tr>
<tr><td colspan="3">(1)子どもの学びの連続性を踏まえた教育課程を編成するなど，学校間の円滑な連携・接続を図る取組を推進します。</td></tr>
<tr><td>その他計画
の位置付け</td><td colspan="3">□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td>学校間の円滑な連携・接続</td><td>担当課</td><td>教育指導課，教育政策課</td></tr>
<tr><td>事業概要
（目的等）</td><td colspan="3">各中学校区内において，校区を同じくする小・中学校で学校教育目標やめざす子ども像を共有し，すべての教職員が共通認識に立ったうえで教育活動を行っていく。</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="3">【取組実績】
・中学校区の小学校に対し，中学校教員が小学校で指導を行う「乗り入れ指導」をはじめ，小学６年生を対象に中学校生活がわかる資料をプレゼンテーションするなどして，中１ギャップの解消を図る工夫がなされた。
・道教委の「不登校対策総合実践事業」において，中学校生活に対する不安の解消や教職員間で児童生徒の情報共有を図ることを目的に，中学校教員が乗り入れ授業を実施するなど，小・中学校間の連携・接続を図った。</td></tr>
<tr><td>成 果 と
課　　題</td><td colspan="3">【成果】
・中学校区の教育目標やめざす子ども像を共有することで，小・中学校の連携が図られ，課題解決に向けた方策が多く実施された。

【課題】
・小学校から中学校に進学する際に，生活環境や人間関係，学習方法等の変化や心身の発達など，様々な要因により，学校生活への適応が難しい児童生徒が一定数在籍する状況が継続していることから，学校間の円滑な連携・接続に向け，取組の工夫と一層の推進が必要である。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>○</td><td colspan="2">
<table>
<tr><th colspan="2">進　捗</th><th colspan="2">成　果</th><th colspan="2">課　題</th></tr>
<tr><td></td><td>予定どおり</td><td></td><td>成果が十分</td><td></td><td>課題はない（ほとんどない）</td></tr>
<tr><td>✔</td><td>概ね予定どおり</td><td>✔</td><td>成果が一定程度</td><td>✔</td><td>課題は小さい</td></tr>
<tr><td></td><td>やや遅れ</td><td></td><td>成果が不十分</td><td></td><td>課題はやや大きい</td></tr>
<tr><td></td><td>遅れ</td><td></td><td>成果が見られない</td><td></td><td>課題は大きい</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>今年度の
状　　況</td><td>継続</td><td colspan="2">各中学校区で推進している小中連携の取組の好事例を周知するなどして，学校間の円滑な連携・接続に向けた取組の充実を図る。</td></tr>
</table>

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策３　学校間の連携・接続 １　学校間の縦の連携・接続 (2)中学校区内の小・中学校において，めざす子ども像の共有を図り，児童生徒に必要な資質・能力を育む取組を推進するとともに，義務教育９年間を見通した指導体制の構築により，小中一貫教育を推進します。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 □その他（　　）		
事業名	中学校区における小中一貫教育の推進	担当課	教育政策課
事業概要（目的等）	義務教育９年間を通して児童生徒に必要な資質・能力を育むことができるよう，同一中学校区内の小・中学校間において，学校教育目標やめざす子ども像を共有し，連携を深めるとともに，学校運営協議会の小・中合同設置を進めることなどにより，地域と学校が連携・協働して小中一貫教育に取り組める体制を整備する。		

取組実績

【取組実績】
・同一中学校区を単位として，小中一貫教育グランドデザインを策定し，小・中学校間で学校教育目標やめざす子ども像を共有した。
・恵山中学校とえさん小学校の学校運営協議会について，令和７年度から２校合同設置とした。

【過去５年間の推移】小中合同設置の学校運営協議会数　　（単位：団体，校）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
学校運営協議会 小中合同設置協議会数	11	13	13	13	14
学校運営協議会 小中合同設置校数	29	33	33	33	35

※併置校：鱒川小中，義務教育学校（戸井学園）含む

成果と課題

【成果】
・同一中学校区における小中一貫教育グランドデザインの策定により，各学校の教育目標やめざす子ども像を共有し，義務教育９年間を見通した指導体制の構築が図られた。
・学校運営協議会の小・中合同設置により，同一中学校区内において，地域と学校が連携・協働して小中一貫教育に取り組む体制の強化につながった。

【課題】
・小・中学校間の連携体制や地域・学校間の連携・協働体制の強化を図るため，コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みを活用した取組の充実を図る必要がある。

評価　○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**	小中一貫教育グランドデザインの共有やコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の仕組みを活用しながら，小中一貫教育の充実を図る。

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進 施策３　学校間の連携・接続 １　学校間の縦の連携・接続 (3)教育上特別な配慮を必要とする子どもに関する個別の教育支援計画などを学校間で円滑に引き継ぎます。		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　□教育行政執行方針 ■その他（学校教育指導資料）		
事業名	はこだて子どもサポートシートの活用の推進	担当課	教育センター，教育指導課
事業概要（目的等）	児童生徒の早期からの一貫した支援の実現を図るため，教育上特別な配慮を要する児童生徒の支援について，「はこだて子どもサポートシート」（本市における個別の教育支援計画および個別の指導計画）の活用を促進し，校種間の確実な引継ぎを行う。		

取組実績

【取組実績】
・特別支援教育巡回指導員が巡回相談を行う際には，「はこだて子どもサポートシート」の活用について助言を行うなど，活用の促進を図った。
・市立小・中学校に，「はこだて子どもサポートシート」の活用についてアンケートを行い，その回答を基に，函館市特別支援教育推進協議会において，「はこだて子どもサポートシート」の活用の好事例と課題について，協議を行った。

【過去５年間の推移】教育上特別な配慮を要する児童生徒の割合（単位：%）

区分	R3	R4	R5	R6	R7
児童生徒の割合	6.0	6.4	6.4	6.7	6.8

成果と課題

【成果】
・通級による指導を行っているすべての児童生徒や特別支援学級に在籍しているすべての児童生徒分の「はこだて子どもサポートシート」を作成し，学校間や小・中学校間の切れ目ない支援の充実が図られた。

【課題】
・「はこだて子どもサポートシート」の内容を必要に応じて見直すほか，学校だけでなく，保護者および関係機関と連携し，児童生徒の特性や発達段階に応じた一貫性のある支援を行うために，「はこだて子どもサポートシート」の活用の促進を図る必要がある。

評価　○

進捗		成果		課題	
	予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度	✔	課題は小さい
	やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
	遅れ		成果が見られない		課題は大きい

今年度の状況	**継続**	函館市特別支援教育推進協議会で出された意見を参考にしながら，「はこだて子どもサポートシート」の活用の促進を図る。

<table>
<tr><td rowspan="4">基本計画
の 体 系</td><td colspan="3">基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td colspan="3">施策３　学校間の連携・接続</td></tr>
<tr><td colspan="3">２　学校間の横の連携</td></tr>
<tr><td colspan="3">(1)指導方法や児童生徒の実態等に関する教職員の情報交流や研究協議会，授業公開などの取組の充実を図ります。</td></tr>
<tr><td>その他計画
の位置付け</td><td colspan="3">□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針
□その他（　　）</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td>学校間の連携による取組の充実</td><td>担当課</td><td>教育指導課</td></tr>
<tr><td>事業概要
（目的等）</td><td colspan="3">近隣校で授業参観や児童生徒の実態等の交流を行い，各学校の教員の指導力の向上を図る。</td></tr>
<tr><td>取組実績</td><td colspan="3">【取組実績】
・中学校区の小・中学校において，互いの教員を授業公開に派遣するなどの交流を図った。
・道教委の「学校力向上に関する総合実践事業」および「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」において，１人１台端末の活用について情報交流し，自校の研修に生かすとともに，授業改善につながる取組の充実を図った。
・学校教育指導監の学校経営訪問や指導主事による学校教育指導（要請訪問・訪問研修）において，指導・助言を行い，各学校の教員の指導力の向上を図った。</td></tr>
<tr><td>成 果 と
課　　題</td><td colspan="3">【成果】
・学校経営訪問や学校教育指導により，学校間の連携による取組の充実や各学校の課題に即した授業改善等による指導力の向上が図られた。

【課題】
・中学校区により，小中連携の取組状況に差が見られることから，これまで以上に学校間の連携した取組について工夫していく必要がある。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>○</td><td colspan="2"><table>
<tr><th colspan="2">進　捗</th><th colspan="2">成　果</th><th colspan="2">課　題</th></tr>
<tr><td></td><td>予定どおり</td><td></td><td>成果が十分</td><td></td><td>課題はない（ほとんどない）</td></tr>
<tr><td>✔</td><td>概ね予定どおり</td><td>✔</td><td>成果が一定程度</td><td>✔</td><td>課題は小さい</td></tr>
<tr><td></td><td>やや遅れ</td><td></td><td>成果が不十分</td><td></td><td>課題はやや大きい</td></tr>
<tr><td></td><td>遅れ</td><td></td><td>成果が見られない</td><td></td><td>課題は大きい</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>今年度の
状　　況</td><td>継続</td><td colspan="2">中学校区で定めたグランドデザインを基にした教育の推進が図られるよう，学校教育指導（要請訪問・訪問研修）等の際に，指導・助言を行う。</td></tr>
</table>

基本計画の体系	基本目標２　地域とともにある学校づくりの推進		
その他計画の位置付け	□基本構想実施計画　　■教育行政執行方針 ■その他（函館市立小・中学校再編計画）		
事業名	市立小・中学校の再編の推進	担当課	教育政策課
事業概要（目的等）	少子化や人口減少による小規模校の増加に対応し，子どもたちにとって望ましい教育環境を提供できる学校規模を確保するため，学校の統廃合や通学区域の調整など，地域の実情を踏まえた学校再編を進める。		
取組実績	【取組実績】 令和４年２月および令和６年５月に学校再編留保を決定した小学校14校，中学校４校における今後６年間の児童生徒数の推計について，市ホームページなどにより，保護者や地域等へ情報提供を行った。 ・小学校14校（弥生小・青柳小・赤川小・神山小・深堀小・南本通小・上湯川小・旭岡小・八幡小・万年橋小・千代田小・中部小・北星小・中島小） ・中学校４校（戸倉中・旭岡中・恵山中・椴法華中）		
成果と課題	【成果】 ・学校再編留保対象校に係る児童生徒数推計を市ホームページなどにて情報提供することにより，保護者や地域の方等に今後の学校規模や児童生徒数の推移について，広く情報共有することができた。 【課題】 ・今後の学校再編の進め方については，児童生徒数の推移や学校規模，地域環境の変化等を見据え，学校を通じて保護者等に情報提供を行い，理解や協力を得ながら，総合的に判断を行う必要がある。		

評価	△	進捗		成果		課題	
			予定どおり		成果が十分		課題はない（ほとんどない）
		✔	概ね予定どおり	✔	成果が一定程度		課題は小さい
			やや遅れ		成果が不十分		課題はやや大きい
			遅れ		成果が見られない	✔	課題は大きい

今年度の状況	継続	今後の再編を進めるにあたっては，児童生徒数の推移や学校規模，地域環境の変化等について，保護者等と情報共有しながら，より望ましい教育環境を検討する。